INTERVIEW
o k a ' s f a m i l y

ご家族に聞く 博士との思い出

松原（まつばら） さおりさん
岡家の次女

ーどんなお父さんでしたか？

めったに怒らない人でしたね。何するにしてもやってみなさいよと、好きにさせてくれましたし、なにより常に真剣でした。文章を書く時の言葉遣いには厳しかったかな。あと、しゃべり始めたら長かったですね。

ー研究中はどうでしたか？

本人は紀見峠で過ごした日々を「壺中の別天地にいた」と表現していました。世の中はまさに戦時中でしたので。

何かについて考え出すと、すごい集中力で、朝から晩までずっと考え事をしていましたね。その時はいくら話しかけてもだめでした。

ー岡博士が大事にしていたことはありますか？

何に対しても、心を中心に物事を考えていました。心に正直に行動して、他所では、怒られるようなことでも、父は笑ってくれていました。

岡 熙哉（ひろや）さん
岡家の長男

ーお父さんはよく遊んでくれましたか？

よく遊んでくれましたね、蛍を追いかけている間に問題の一つが解けてしまったことがありました。

あと、一番印象に残っているのは麻雀です。

麻雀が大好きで、父曰く麻雀は、「二晩徹夜したあたりから面白くなる」と言いながら打っていました。そこではたまに怒ってましたね、美しい手を作りなさいと。

花がるたや、トランプなどもよくやりましたね。

ー世の中が気になりだしたきっかけは何だったのでしょう？

「死なばもろとも」と言っていた日本が、戦後、食料を奪い合ったり、子どもが親を刃物で切りつけたりと、世の中が荒れていっていることが、気になったようです。

日本の国の行く末が自分のことよりも気になり、このままでは日本は滅びると、講演や執筆活動で世の中に訴えました。「数学なんて暇なことやってられない」と、言っていました。

ーこのたび、数学体験館ができることについてどういったことに期待されますか？

数学だけに限らず、子どもたちの将来の夢を叶える基礎の力を培う場、豊かな情緒を育む場であってほしいです。心が震えるような昔の物語が読めたり、絵を描いたり、工作したり、さまざまな体験や学びができる場にしてほしいです。友だちと一緒にたくさん話して、心から楽しめる場にしてもらえるとうれしいです。

INTERVIEW
e l e m e n t a r y s c h o o l

小学生に聞く 博士の印象

橋本市のガイドブックを作るという授業で、岡潔博士について調べてくれた橋本小学校の６年生４人が、インタビューを受けてくれました。

ーみんな岡潔博士のことは知っていましたか？

全然知らなかったです。初めは誰だろうと思いながら、調べていました。

ー調べてどう思いましたか？

脳に刺激を与えないからという理由で、一年中長靴をはいていたり、ちょっと変わった人だと思いました。

ーパンフレットを作ってみてどうですか？

多くの人に見てもらって、橋本市にこんなにすごい人がいたんだということを知ってもらいたいです。

左：橋本小学校6年生が作成した橋本市ガイドブック
右：博士についてまとめたページ

岡潔数学体験館が完成

４月に、岡潔数学体験館が開館します。
それに伴い４月号では、岡潔数学体験館について詳しく掲載します。
４月号もぜひ、お楽しみください。

～あとがき～

博士には、ご紹介したような天才ならではのユニークなエピソードが数多く残っています。

また、人間性の温かさから、紀見村では「博士はん」と呼ばれ、大変慕われていたそうです。

数学界に偉大な業績を残すだけでなく、戦後の社会における変容を憂い、文化や教育への熱い思いを訴え続けた博士は、1978年、76歳でその生涯に幕を下ろしました。

世界的に高く評価されている数学の業績と、人の中心は情緒であるという考えを、これからも未来につないでいきたいです。

生涯学習課・編集担当者

▶笑顔で並ぶ岡夫妻